

光学レンズから 特殊レンズまで オリジナルの加工機で対応



菊地光学精工株式会社

**大量生産から
小ロットへの移行で
品質を大幅に向上**

医療機器や工場内の測定機等、高い精度が求められる分野で力を発揮しているのが、菊地光学精工だ。顕微鏡や測定用機器のミラーやレンズ、プリズム等が生産品目の58%を占める。また、医療機器のレンズにも強く、眼科の手術用ミラーやレンズ、さらに半導体のステッパー等、精度の高い光学レンズも得意分野の一つだ。

いまや最先端分野でなくてはならない存在となったが、創業当初は現在とまったく業態が異なり、カメラや写真植字機のレンズを大量生産していた。従業員も300人を超えていたという。だが価格が安い海外製品が流通しはじめたのを機に、軸足をより高い精度の光学分野に移し始めた。今では当時から残る従業員を含む、60人弱の精鋭部隊となっている。

「一人ひとりの責任は重くなりませんが、個人の技量が向上し、協調性も出てきました。苦しい時代もあ

りましたが、そこで多くの気づきや改良が生まれました」と菊地敏則社長は言う。大量生産から小ロットに移行するため、工程の見直しや機械の改造や開発を行った結果、不良品が激減し、1個の製品の精度が向上して安定供給ができるようになったという。独自路線を見出したことが、多くの企業が淘汰される中で伸びてきた所以だろう。

レンズの研磨から接合、切断、コーティングまで一貫加工

光学レンズは、信州や関東に拠点を置く企業が多い。その多くの企業は研磨専門、コーティング専門と分業化しているという。菊地光学精工は、材料の手配から仕上げまで、すべて社内で行うのが強みだ。これができるのは国内でも数少ない。

「一貫生産は、納期も短縮できますので、1個でも作ってもらえる、仕上がり早いと取引先からも好評です」と菊地社長が言うように、一貫して任せられる利便性が取引先に評価されている。

強みはそれだけではない。光学レンズ以外にも平面基板や加工先が極めて少ない高精度円筒レンズ等、幅広い分野を扱っているのが特長だ。高品質光学薄膜を作成する全自動蒸着機や、大口径レンズから極小レンズまで、幅広いサイズに対応できる芯取り機等、自社開発した機械が揃い、特殊なレンズ加工も可能にしている。

平成21年はイタリアの科学者ガリレオ・ガリレイが初めて望遠鏡で宇

宙を見た年から、ちょうど400年目に当たり、国際天文学連合等により世界天文年に定められている。菊地光学精工では、当時のガリレオが使った望遠鏡を精密復元するプロジェクトに参画し、レンズを製作したという。月面のクレイターもしっかり見えるというから驚きた。

「今後は世界に進出したい」と語る菊地社長。海外の医療機器や測定機メーカーとの取引を目指している。「思い続ければ、必ずかなう」。自らの経験で得た信念で、夢の実現に進んでいく。

主な事業内容

光学レンズ・プリズム・円筒レンズ・平面基板・レーザー基盤・光学ミラー・光学フィルター等の精密研磨、レーザー光学系・センサー系等の精密加工等



菊地敏則さん
代表取締役社長

Company Profile

菊地光学精工株式会社

住所 / 〒599-8233
大阪府堺市大野芝町213-1

創業 / 昭和27年1月

設立 / 昭和37年12月

資本金 / 3,000万円

従業員 / 58名 (平成21年1月現在)

T E L / 072-235-2131

F A X / 072-235-3577

ISO 9001

ISO 14001

<http://www.kikuchi-kougaku.co.jp/>

大阪
20